

秋ですね。食欲の秋、読書の秋、運動の秋などなど...、紅葉を背にしながら、いろいろな取り組み、動きやすい季節であるように思いますが、皆さん、いかがでしょうか。

こんな言葉に出会いました。糖尿病の慢性合併症について、わかりやすくお伝えできそうです。糖尿病の両立支援にも活用を、進んできているが症状がなく、気づいたときには重症化…。できるだけ、そうならないよう「しめじ」を押さえよう、「えのき」の予防を。

糖尿病の三大合併症「しめじ」とは「し」は神経障害、「め」は眼で網膜症、「じ」は腎症、出現する順番も「し」→「め」→「じ」の通りだそうです。

大血管合併症の「えのき」について、太い血管が障害され生じる、足の壊疽（下肢閉塞性動脈硬化症 [ASO]）、脳血管障害、虚血性心疾患の頭文字をとったもの。ご参考まで。

<＊岩岡秀明の「糖尿病診療のここが知りたい！」リターンズより> （菅野）

目次

- 1 2023 年 8 月 1 日 独立行政法人評価に関する有識者会議 労働WG(第 4 9 回) 議事録
労働者健康安全機構
- 2 治療と仕事の両立支援 「今月の現場から（保健師コラムリレー）」10/2
- 3 新しい時代の働き方に関する研究会 第 15 回資料
- 4 「令和 5 年版 過労死等防止対策白書」を公表します
- 5 関連情報

1 2023 年 8 月 1 日 独立行政法人評価に関する有識者会議 労働WG(第 4 9 回) 議事録 労働者健康安全機構

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_35366.html

日 時 令和 5 年 8 月 1 日(水) 9 : 3 0 ~ 1 2 : 0 2

場 所 中央労働委員会 労働委員会会館 6 1 2 会議室

出席者 今村主査、酒井構成員、関口構成員、土井構成員、土橋構成員、西岡構成員、
三宅構成員、宮崎構成員、安井構成員

<一部抜粋>

○法人の概要です。左上は、設立ですが、当機構は平成 28 年 4 月に 2 つの独法が統合して設立されたものです。主な役割については、真ん中から下に書いております。労働安全衛生総合研究所、日本バイオアッセイ研究センター、労災病院をはじめとしまして、各都道府県に設置した産業保健総合支援センター、労災病院に併設している治療就労両立支援センター等の施設を運営するなどして、労働者の健康及び安全、福祉の増進に取り組んでいるところ です。

○本日の議題は、労働者健康安全機構の「令和 4 年度業務実績評価」、「中期目標期間見込評価」及び「業務・組織の見直し」に係る意見聴取を行うこととなっております。

＊それぞれの取り組みに関して、今実践されてきていることなど、多岐にわたる活動状況が記載されています。関与する産業保健分野に関しても、メンタルヘルス、職場復帰、両立支援、両立支援コーディネーター養成、中小企業の実態における支援など、これまでの実

績とこれからのあり様を示されております。時間があつたら、あるいは時間を作ってぜひ読んで頂くようお勧めいたします。実践がどう評価されて、役立つことの意味、必要性を教えてくださいました。僭越ですが、皆さんと一緒に歩みを頑張りたいです。(菅野)

2 治療と仕事の両立支援 「今月の現場から（保健師コラムリレー）」 10/2

<https://www.ryoritsushien.johas.go.jp/staff.html>

事業場が「治療と仕事の両立支援」に取り組む意義

北海道産業保健総合支援センター 産業保健専門職 鳴海志織

「事業場における治療と職業生活（仕事）の両立支援のためのガイドライン」（以下ガイドライン）は、平成28年2月に作成されてから今年で7年になります。産業保健総合支援センター（さんぽセンター）ではその普及活動と事業場、労働者への支援を続けています。ですが、さんぽセンターへの相談や両立支援をテーマとした研修会への参加者が多くはないことから、普及不足を感じています。

当センターでは、2019年～2021年にかけて北海道内の約14,000事業場へガイドラインの認知度についてアンケート調査をしました（約3,000事業場から返信あり）※。その結果、ガイドラインについて名称も内容も知っている事業場は1割、名称は知っているが内容は知らないが4割、名称も内容も知らないが5割という結果であり、認知不足を裏付ける結果でした。特に労働者50人未満の事業場や都市部以外の地域ではこの傾向が強く、道内において普及推進が喫緊の課題であると実感しています。

そこで今回は、両立支援に取り組んでいないこと、ガイドラインを知らないことが、どのようなことにつながるかをお話しします。

両立支援について当センターへ寄せられる相談は、「近日中に社員が復職するので今すぐ何とかしなくてはならないがどうしたらよいか」「復職した職員が再度不調で休ませたいが有休もなく対応しづらい」「すでに復職している職員を通常勤務させる時期にきたが配慮することは何か」といった、今すぐ対応が必要なことでの相談が多い印象です。

目指す目標が直近の場合、社内規定を確認し必要に応じて変更、主治医/産業医の意見聴取、職場内の業務調整などを短期間で実施することになります。ですが、当事者や事業場の不安を抱えたまま見切り発車とならないようにしなければなりません。（略・続く）

※アンケート調査結果は当センターH.Pへ掲載予定です。

<https://www.hokkaidos.johas.go.jp/>

*上記アドレスにアクセスして続きをお読みください。

がん等で休むことは、働いているとほぼ遭遇しますね。その支援体制の存在には心強く思います。(菅野)

3 新しい時代の働き方に関する研究会 第15回資料

https://www.mhlw.go.jp/haishin/u/l/?p=k3Sgn2ERgl_CA9oBY

令和4年度労働政策審議会労働条件分科会報告を踏まえた労働契約法制の見直しについて（無期転換ルール及び労働契約関係の明確化）

- ・ [議事次第 \[PDF形式：52KB\]](#)
- ・ [資料 報告書案 \[PDF形式：963KB\]](#)
- ・ [参考資料 \[PDF形式：6.3MB\]](#)

各種リーフレット・改正の内容について

▶リーフレット [2024年4月から労働条件明示のルールが変わります \[316KB\]](#) **NEW**

<https://www.mhlw.go.jp/content/11200000/001156050.pdf>

▶パンフレット [2024年4月からの労働条件明示のルール変更 備えは大丈夫ですか？](#)

[\[1.6MB\]](#) **NEW**

<https://www.mhlw.go.jp/content/11200000/001156048.pdf>

第1章 就業場所・業務の変更の範囲

第2章 更新上限に関する事項

第3章 無期転換に関する事

第4章 その他の留意事項

1. 就業規則について……
2. 無期転換申込みに関する不利益取扱い……
3. 無期転換ルールにおける通算契約期間のリセット（クーリング）…
4. 無期転換ルールの対象者と特例……
5. 労使間の意思疎通（労使コミュニケーション）……

コラム 多様な正社員……

コラム 人材の定着・育成に向けて（事業者へ）……

○ Q&A

[令和5年改正労働基準法施行規則等に係る労働条件明示等に関するQ&A \[191KB\]](#) **NEW**

○ 通達

[労働基準法施行規則及び労働時間等の設定の改善に関する特別措置法施行規則の一部を改正する省令等の公布等について \[313KB\]](#)

[労働基準法施行規則及び労働時間等の設定の改善に関する特別措置法施行規則の一部を改正する省令等の施行等について \[479KB\]](#) **NEW**

○ 省令・告示

▶ 省令 [令和5年3月30日厚生労働省令第39号 \[968KB\]](#)

▶ 告示 [令和5年3月30日厚生労働省告示第114号 \[110KB\]](#)

○ 参考

▶ モデル労働条件通知書 [モデル労働条件通知書 \[237KB\]](#) **NEW**

4 「令和 5 年版 過労死等防止対策白書」を公表します

～睡眠と疲労、うつ傾向及び主観的幸福感などの関係について調査分析～

<https://www.mhlw.go.jp/haishin/u/l?p=C-w7W2r2OBlgqLmZY>

「令和 5 年版 過労死等防止対策白書」の主な内容

1. 「過労死等の防止のための対策に関する大綱（令和 3 年 7 月 30 日閣議決定）」に基づく調査分析として、睡眠の不足感が大きいと疲労の持ちこし頻度が高くなり、うつ傾向・不安を悪化させ、主観的幸福感も低くなる傾向があること、芸術・芸能分野における働き方の実態、メディア業界や教職員の労災事案の分析結果等について報告。
2. 長時間労働の削減やメンタルヘルス対策、国民に対する啓発、民間団体の活動に対する支援など、令和 4 年度の実施を中心とした労働行政機関等の施策の状況について詳細に報告。
3. 企業や自治体における長時間労働を削減する働き方改革事例やメンタルヘルス対策、産業医の視点による過重労働防止の課題など、過労死等防止対策のための取組事例をコラムとして紹介。

なお、「過労死等防止対策白書」は、厚生労働省ホームページの下記 URL からダウンロードできます。

<https://www.mhlw.go.jp/stf/wp/hakusyo/karoushi/23/index.html>

5 関連情報

◇ 厚生労働省 ▼ △ 新着情報配信サービス から

(1) 令和 5 年度 今シーズンのインフルエンザ総合対策についての更新

<https://www.mhlw.go.jp/haishin/u/l?p=1TLIhbQo5sz-dhVHY>

1. はじめに

今シーズンのインフルエンザの流行に備え、「今シーズンのインフルエンザ総合対策」を取りまとめ、国や地方自治体がインフルエンザ対策に取り組むとともに、広く国民の皆様インフルエンザに関する情報を提供し、適切な対応を呼びかけることといたしました。

(2) 令和 5 年度「世界患者安全の日」について

https://www.mhlw.go.jp/haishin/u/l?p=U7RhyIpkIEKE_YvBY

概要

「世界患者安全の日（以下、WPSD：World Patient Safety Day）」とは、「患者安全を促進すべく世界保健機関（以下、WHO）加盟国による世界的な連携と行動に向けた活動をする事」を目的として、医療制度を利用する全ての人々のリスクを軽減するために 2019 年に WHO 総会で制定されました。患者安全を促進する事への人々の意識、関心を高め、国際的な理解を深めるとともに、各種媒体を用いて普及活動を推進しています。

WHO は、患者安全文化の醸成のための普及活動の一環として毎年スローガン等を作成しています。

2023 年度 テーマ Engaging patients for patient safety

スローガン Elevate the voice of patients!

(3) 定例第 157 号 「令和 5 年版 労働経済の分析」(労働経済白書) を公表しました

<https://www.mhlw.go.jp/haishin/u/l/?p=k3SWpyEHNNbM5msBY>

○分析テーマは「持続的な賃上げに向けて」

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_35259.html

○人事労務マガジン定例第 157 号 [512KB]

<https://www.mhlw.go.jp/content/12600000/001152687.pdf>

(4) 令和 5 年度「医療安全推進週間」について

令和 5 年 11 月 19 日(日)～11 月 25 日(土) (毎年度 11 月 25 日を含む 1 週間)

https://www.mhlw.go.jp/haishin/u/l/?p=wyTEbl9LDw_ZkQ5RY

厚生労働省では、「患者の安全を守る」ことを中心とした総合的な医療安全対策を推進するため、2001 年から各関係者の共同行動を「患者の安全を守るための医療関係者の共同行動(ベイシエント・セーフティ・アクション)」と命名し、様々な取り組みを推進しています。その一環として、医療機関や医療関係団体等における取り組みの推進を図り、また、これらの取り組みについて国民の理解や認識を深めていただくことを目的として、11 月 25 日(いい医療に向かって GO)を含む 1 週間を「医療安全推進週間」と定めています。

◇ J I L P T から

(1) シンポジウム「循環型経済におけるディーセント・ワークー公正な移行に向けて」

(主催：法政大大原社研・ILO 駐日事務所／後援：日本 ILO 協議会)

法政大学大原社会問題研究所は 10 月 24 日(火)、国際労働問題シンポジウム「循環型経済におけるディーセント・ワークー公正な移行に向けて」を会場(市ヶ谷キャンパス)とオンラインで開催する。第 1 部では、厚労省・経団連・連合から 2023 年の ILO 総会についてそれぞれ報告。第 2 部では、自動車産業を事例として、環境学や経済学の有識者らが問題提起と議論を行う。参加無料。申込期限 10 月 22 日(日)。

<https://www.hosei.ac.jp/info/article->

[20230926131020/?auth=9abbb458a78210eb174f4bdd385bcf54](https://www.hosei.ac.jp/info/article-20230926131020/?auth=9abbb458a78210eb174f4bdd385bcf54)

(2) 中小企業の 7 割近くが「人手不足」と回答／日商調査

日本商工会議所は 9 月 28 日、「人手不足の状況および多様な人材の活躍等に関する調査」結果を発表した。人手が「不足している」との回答が約 7 割(68.0%)で、2015 年の調査開始以来、最大、うち人手不足が「非常に深刻」(6.9%)と「深刻」(57.2%)の計は 64.1%。業種別では、介護・看護業(88.4%)、宿泊・飲食業(82.7%)と高く、2024 年問題を抱える運輸業(75.0%)、建設業(65.6%)も 7 割前後に上る。また、女性のキャリアアップ支援の「必要性を感じている」との回答が 8 割強(84.3%)に達するものの、うち 6 割弱が「十分取り組めていない」と回答している。

<https://www.jcci.or.jp/news/jcci-news/2023/0928140000.html>

▽詳細

https://www.jcci.or.jp/20230928_diversity_release.pdf

(3)「多様な正社員」制度導入支援セミナー／厚労省委託

厚生労働省「多様な正社員」制度に係る調査研究・導入支援等事業プロジェクトは 11 月 20 日(月)、『多様な正社員』制度導入支援セミナー」を会場（千代田区）とオンラインで開催する（事務局：PwC コンサルティング合同会社）。同制度に関する講演や導入企業の事例紹介、パネルディスカッションなど。対象は、同制度に関心のある事業主、人事労務担当者等。参加無料、要事前申込。なお、同プロジェクトでは「多様な正社員」制度導入支援（無料コンサルティング支援）も行っている。

<https://tayounaseishainseido.com/#03>

◇ 労働安全衛生総合研究所 メルマガから

(1) 過労死等防止調査研究センター ポータルサイト開設のお知らせ

このたび、過労死等防止調査研究センター（RECORDs：Research Center for Overwork-Related Disorders）ポータルサイトを開設しました。このサイトでは、RECORDs のメンバーが執筆した学術論文等の研究成果や、これまでに発表してきた研究報告書や資料を、労働安全衛生の専門家のみならず一般の方々にも分かりやすいように解説しています。

多くの皆様のお役に立てるようにこれからも内容の充実を図ってまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

↓↓↓ 以下のリンク先で内容をご覧ください。 ↓↓↓

<https://records.johas.go.jp/>

(2) 【177-2】 コラム

「心理的ディタッチメント：仕事以外の時間に仕事から心理的に距離をとること」

（産業保健研究グループ 任期付研究員 木内 敬太）

心理的ディタッチメント（PD：Psychological Detachment）とは、仕事以外の時間に物理的にも心理的にも仕事から距離をとることで、仕事によるストレスや疲労からの回復にとっても重要です。私たちが日本の労働者を対象に行った長期の追跡調査でも、PD が高い人では、仕事のストレス要因によって生じる将来の抑うつ症状の程度が和らぐことが示されました。本コラムでは、PD に関する過去の研究数の推移を示し、PD に先立つ要素について概説します。

↓↓↓ 以下のリンク先で内容をご覧ください。 ↓↓↓

https://www.jniosh.johas.go.jp/publication/mail_mag/2023/177-column-1.html

◇ ◆ 【From_M】 から 情報提供ありがとうございます

◆緊急避妊薬、11 月 20 日から 処方箋なしの試験的販売開始へ

<https://news.yahoo.co.jp/articles/20e9c1d97b89646c9d52cc6f0af689355d021ad6>

◆「睡眠時間」理想と実際の差が大きいと“うつ傾向が増加” 「過労死等防止白書」発表
<https://news.yahoo.co.jp/articles/2a0ef5d6d22a7c999b5064827a02f1efefd10d2d>

政府は、過労死を防ぐため、睡眠の傾向やハラスメントなどについてまとめた白書を
発表しました 睡眠時間…理想と実際の差が大きいほど、「うつ」傾向に…。

◆罹患者の4分の1が生産年齢企業のがん対策が問われる | 経済界ウェブ
<https://net.keizaikai.co.jp/68943>

2019年に新たにがんと診断された99万9075人のうち、主な生産年齢に当たる15～64
歳は24万2903人と、約24.3%を占める。今後定年延長や定年後再雇用で、この割合は
さらに上がるだろう。企業はいかに経済的損失を抑え、従業員をサポートしていけるか。
文=小林千華（雑誌『経済界』2023年11月号巻頭特集「ベンチャーが導く『がん治療』
革命」より

◆患者団体に聞く！ 一般社団法人がんと働く応援団 根守直博さん |
がん情報サイト「オンコロ」

「がん防災」とそれらのサポートについて - 「仕事」と「治療」のバランスとは -
https://oncolo.jp/organization/interview_231006

◆がん治療と仕事の両立支援セミナーの開催について | 静岡労働局
https://jsite.mhlw.go.jp/shizuoka-roudoukyoku/news_topics/ryouritsusien_00001.html
<https://jsite.mhlw.go.jp/shizuoka-roudoukyoku/content/contents/001592440.pdf>

「がん治療と仕事の両立支援 オンラインセミナー」開催のお知らせ |
静岡がんセンター

<https://www.scchr.jp/press/20231011-2.html>
<https://www.scchr.jp/cms/wp-content/uploads/2023/10/7ae73397e50ecab9b7733478b858c8a6.pdf>
<https://www.scchr.jp/cms/wp-content/uploads/2023/10/1bccede04225f4f7ef87f7b5622867c3.pdf>

◆松下幸之助が教える「成功への極意」、ビジネスパーソンが“胸に刻むべき”金言とは
<https://www.sbbi.jp/article/cont1/123123>

経営の神様と謳われる松下幸之助の著書「社員心得帖」をご存じでしょうか？
松下幸之助が実践し、成果を挙げてきた金言が書されているビジネスパーソン必見の本で
す。この中で、松下幸之助は激動の時代こそ基本が大切だと断言しています。事実、成功
した人、成果を出せる人を見ると、社員心得帖の内容を自然と実践していると感じます。
では具体的に、松下幸之助はどのようなことを心得ておくべきと話しているのでしょうか。

◆リーダーが相手の心を開かせるための3つの接し方

<https://news.yahoo.co.jp/articles/4fd634c2ddcf0685f35c3f3050d3a5258ea5e730>

- ・心のこもったコミュニケーション
- ・相手の心を開くため優しく接する
- ・認めるべきところをきちんと認める
- ・話を明確にして相手に余裕を与える

- ◆なぜ、パワハラは起こるのか。科学的なデータとエビデンスを基にパワハラ対策を推進し、働く人を、日本を、元気にしたい：パーソル総合研究所

<https://rc.persol-group.co.jp/thinktank/interview/i-202310060001.html>

神奈川県立保健福祉大学大学院 ヘルスイノベーション研究科 准教授 津野香奈美 氏

パワハラの実態や原理原則を知ってほしい

部下と仲良くなればパワハラを防げるという誤解

パワハラ未満のグレーゾーンに着目

ワーク・エンゲイジメント施策の前にパワハラ対策を

- ◆「介護離職」年間 10 万人超 新たな支援制度 厚労省が議論

<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20231012/k10014223761000.html>

家族の介護や看護を理由として、仕事を辞める「介護離職」が年間 10 万人を超える中、厚生労働省は 12 日、労使で作る審議会を開き、介護離職を防ぐための新たな支援制度について、議論を始めました。

- ◆「動画・資料」 「日本健康会議 2023」講演資料/動画議事録

<https://2025.kenkokaigi.jp/news/n021>

当日の講演資料をダウンロードいただけます。

- ◆「高血圧」「糖尿病」「脂質異常」予防可能性 10 倍以上の歩行量とは？

20 年以上の研究で明らかに

<https://news.yahoo.co.jp/articles/596fecb0413e3b6206d5f3fc1b778f60dc5cc79f>

「歩行」こそが万病を防ぐ

ようやく朝晩涼しくなってきた。秋の到来である。酷暑のもとではどうしても腰が重くなったが、爽やかな風に吹かれての運動は格別。しかし、そこに問題が立ちだかる。どんな運動が良いのだろうか……。答えはいたってシンプルだ。「歩行」こそが万病を防ぐ！ 【青柳幸利/東京都健康長寿医療センター研究所・元運動科学研究室長】

- ◆産業医学振興財団 《書籍》産業保健の国際共通課題

— すべての労働者にサービスを届けるために —

<https://www.zsisz.or.jp/shop/book/2023/09/post-2.html>

<定価：1760 円（消費税込） 送料：350 円>

小野田 富貴子（両立支援担当）

fukiko-onoda@honbu.johas.go.jp

中山 篤 （メンタルヘルス担当）

atsui78natsu@gmail.com

菅野 由喜子（メンタルヘルス担当）

yukikan28@gmail.com